

長崎県の現状

長崎県の道路をとりまく状況

1. 本県の地勢

- ・平地が少なく山地が多い
- ・離島・半島の占めるウエートが高く、ほとんどが過疎地域

2. 人口減少と少子高齢化の進行

- ・高齢化は全国より5年早いペース。離島は10年早い
- ・都市部近郊に比べ、離島・半島で人口減少が顕著

3. 産業の動向

- ・離島・半島部で第1次産業が盛んだが、生産額は低下傾向
- ・第2次産業は割合も低く停滞
- ・半島部などの高速ICから遠い地域では、企業立地が少なく、有効求人倍率が低い

4. 観光の動向

- ・観光資源は多種多様で豊富
- ・観光客は伸び悩み
- ・半島部など高速ICから遠い地域は県外からの誘客が少ない
- ・長崎港と佐世保港が日本海側拠点港に選定

5. 災害リスクの高まり

- ・台風、がけ崩れ、地すべりなど、災害危険性が高い
- ・近年ゲリラ豪雨等のリスクも

6. 不均衡な救急医療サービス

- ・三次救急医療施設や産科のある病院は都市部に集中
- ・離島・半島部での救急搬送は長時間
- ・本土部では高速道路網を利用した救急搬送が頻繁

7. 大型プロジェクトの進行

- ・九州新幹線西九州ルート
- ・上海航路復活プロジェクト

8. 環境・景観への意識の高まり

- ・地球温暖化対策として二酸化炭素排出量の抑制が急務
- ・魅力ある景観の保全、活用による地域活性化への取り組み

9. 公共事業費の推移

- ・厳しい財政状況により、国・県とも道路予算削減（ピークの約半分）

長崎県の道路整備状況

1. 高規格幹線道路、地域高規格道路の整備の遅れ

- ・西九州自動車道、島原道路、西彼杵道路など、半島部を中心に低い供用率

2. 都市計画道路の整備状況

- ・約4割が未供用

3. 離島部などの道路改良の遅れ

- ・離島など地方部の改良の遅れ
- ・走行性の悪い区間が多数存在

4. 災害による通行止めと緊急輸送道路の状況

- ・離島・半島部に多い道路災害や事前通行規制区間
- ・緊急輸送道路に要防災対策箇所や耐震補強対策の検討が必要な橋梁が多数存在

5. 低水準の歩道設置率

- ・法指定道路内歩道整備率は5割程度

6. 高齢化する既存ストックの急速な増加

- ・今後高齢化する構造物が急速に増加
- ・橋梁を例にとると、20年後には約半数が高齢化

7. 低水準の道路緑化率、無電柱化率

- ・DID内の道路緑化率、幹線道路の無電柱化率はいずれも九州ワースト1位、2位と低水準

長崎県の道路交通状況

1. 全国より高い自動車分担率

- ・全国に比べて自動車依存率が高い

2. 都市部に集中する自動車交通需要

- ・都市部では交通量が多く、混雑が見られる

3. 長崎市・佐世保市に集中する交通流動

- ・日常生活の遠距離移動は両市に集中
- ・周辺市から両市への結びつき（OD）が強い

4. 半島部が圏外となる交通時間圏

- ・島原半島など、カバー圏外

5. 都市部での厳しい交通渋滞

- ・都市部の慢性的な渋滞

6. 都市部に集中する交通事故と高齢者事故の増加

- ・事故の大半が都市部に集中し、事故多発箇所が長崎市に集中
- ・歩行者の高齢者交通事故割合が増加傾向

7. 騒音の環境基準未達成道路の存在

- ・環境基準達成率の平均は90%以上であるが、非常に低い区間も存在

課題の整理(10の課題)

道路を取り巻く近年の状況

道路整備の現状

道路交通の現状

10の課題

課題1	所要時間の短縮や定時性の確保による、産業振興や観光振興の支援
課題2	高速交通ネットワークや大型プロジェクトとの連携
課題3	道路災害の未然防止、災害発生時に重要な役割を果たす緊急輸送道路や代替ルートの確保
課題4	歩行者や通行車両の安全・安心な移動の確保
課題5	半島部・離島部における高次救急医療施設などへの搬送時間の短縮
課題6	既存ストックを荒廃させない適切な維持管理、維持補修費用の抑制・平準化
課題7	都市部の厳しい交通渋滞の解消・緩和
課題8	離島部などの日常生活等における利便性向上
課題9	地球温暖化対策としての渋滞緩和や沿道環境への配慮
課題10	自然景観や街並み景観への配慮